



Ryo Nagai

ながい・りょう／一九九〇年、神奈川県横浜市生まれ。二〇〇八年、創価大学経済学部に入學。一〇〇年、オーストラリアにワーキングホリデーで半年間滞在。一二年創価大学卒業。同年NPO法人ピースウィンズ・ジャパンに採用となり、東ティモールに赴任。

コーヒーで東ティモールの地域創生に励む

NPO法人ピースウィンズ・ジャパン フェアトレード部東ティモール現地代表

永井 亮宇

さん

創価大学経済学部卒業

「私の特技は英語と誰とでも親しくなれることです」と
屈託ない笑顔で語る永井さんは、現在、NPO法人ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）の一員として、東ティモールの主要産業であるコーヒーの生産・加工技術と海外販売を支援している。東ティモールは、二〇〇二年にインドネシアから独立を果たしたが、その後も内紛が続き経済は停滞状態となった。その中、一九九九年から支援を行っていたPWJが、復興の糸口として着目したのがコーヒーだった。

「東ティモールは、標高が高く一日の寒暖差が大きいなど、良質の美味しいコーヒー豆が採れる条件を備えています。完全有機栽培という魅力もありますし、今は農家が細々とコーヒーを栽培している状況ですが、必ず世界のトップブランドになれると信じています」と永井さん。



コーヒー畑で現地の人と作業する永井さん

コーヒーの品質を高めて少しでも高い値段で売れるようにすること、また、そうした事業に携わる人材を育てることが永井さんの仕事だ。そのため、ある時は東ティモールの山間の村で現地の人と共にコーヒー豆を収穫し、またある時は販路拡大のためにオーストラリアや日本へ出向くといった日々を送っている。

永井さんは、高校時代から発展途上国や国際紛争に関心をもち、将来はそうした地域に立つ仕事がしたいと創価大学経済学部に入學。英語で経済学を学ぶプログラムがあり、留学の機会も多いという理由からだ。大学二年の時には、オーストラリアから東ティモールに渡った。東ティモールの現状を知ったのはこのときだった。そこには手つかずの自然が残る一方、貧

創価大学は、開学以来、国際社会で活躍する人材育成に力を入れています。経済学部では二〇〇一年から英語で経済学を学ぶ「インターナショナルプログラム」を実施し、現在は全学部で専門科目を英語で学ぶ授業を展開しています。このような取り組みは文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」にも採択されました。



1995年1月、創価大学の創業者・池田大作先生は、国際的学術機関であるハワイ・東西センターで「平和と人間のための安全保障」と題し講演を行った(写真)。これは国連創設50周年を記念するもので、約250名の学識者が出席。創業者は、恒久平和の道を開き人間の

ための安全保障を可能にするために、「知識から智慧へ」「一様性から多様性へ」「国家主権から人間主権へ」の発想の転換を提案した。創価大学は、「平和・文化・教育」の世紀へ学生第一の精神のもと多様性豊かなキャンパスから創造的世界市民の輩出を目指している。